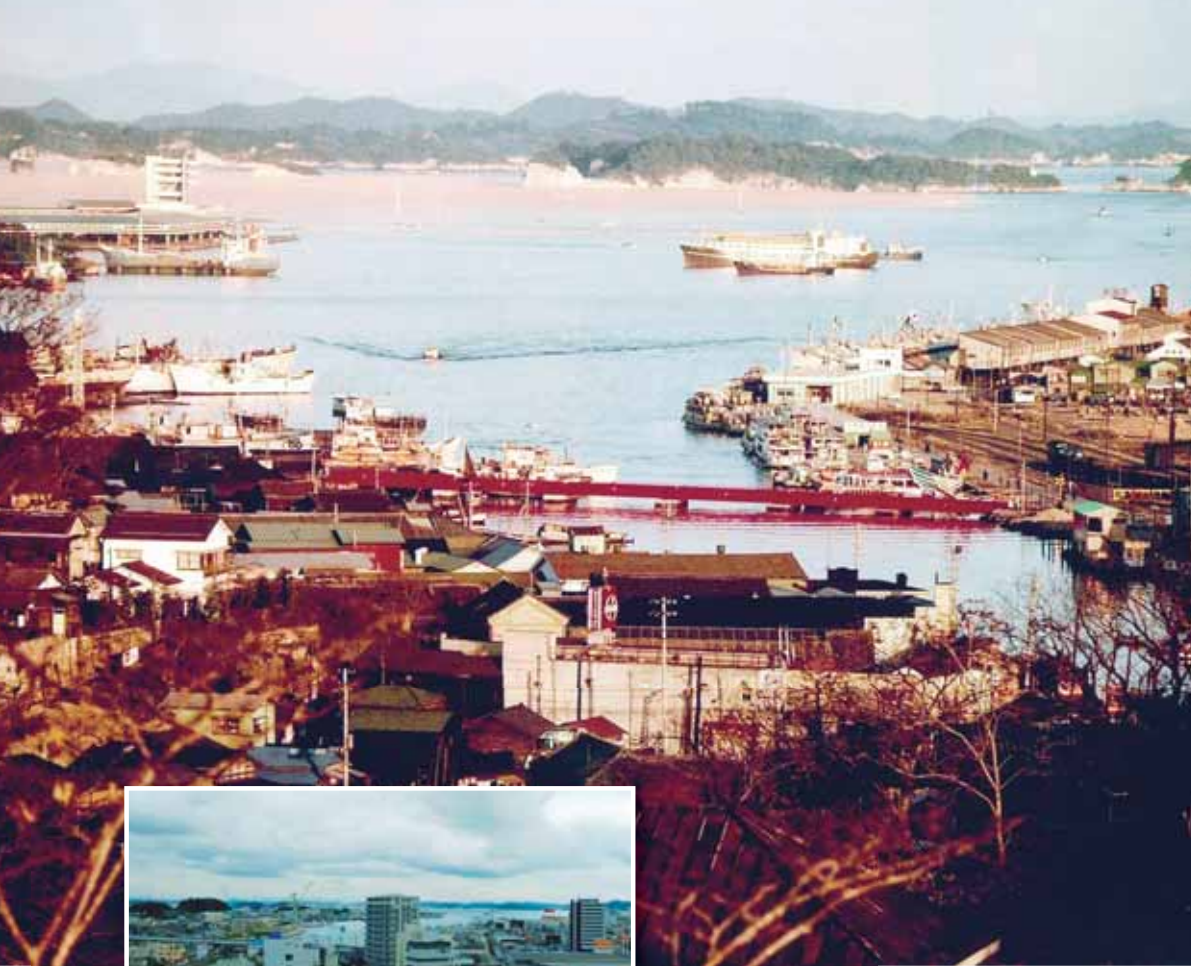


# 塩竈の歩み



▲昭和40年代初め、鹽竈神社からの港奥部の眺望  
◀現在の吉番館から撮影した塩釜港

## 海と関わりながら 発展を続けるまち塩竈

塩釜港は、東北の近代港湾発祥地で、漁港や、物流の拠点としての商港、観光遊覧船が発着する観光港など、さまざまな顔をもつ港として発展しました。しかし、昭和後期には、仙台港の開港や産業構造の変化、観光ニーズの多様化などの社会環境の変化に伴い、港の新たな展開が求められました。昭和62年に、海や港を活用するため「塩釜ポートルネッサンス21計画」が策定され、港奥部の整備が始まりました。計画は、港奥部の埋立事業や水族館の建設、人工島構想など、夢あふれるものでした。

平成8年には、市民や観光客を中心に賑わうマリングेट塩釜が誕生しました。その後、港奥部の中心部は「海辺の賑わい地区」として「食・住・商」が混在する量販店や住宅地、公園などが立地し、本市の新たな顔となりました。

しかし、東日本大震災では津波が押し寄せ、この地区は大きな被害を受けました。震災復興計画により、津波避難デッキや津波防災センターなどの整備、北浜地区の土地区画整理事業などを進めてきました。

近年では、市民や市内の事業者がカーヌーやカヤックを体験できるイベントなどを開催するなど、今もなお、塩竈市は海と関わりながら発展を続けています。

### 市長コラム

## 雲外蒼天

もっと塩竈は楽しくなる。  
もっと塩竈を好きになる。

市長就任3年目に入り、任期の折り返しを迎えました。就任早々に発生した台風19号をはじめ、度重なる自然災害やコロナ禍による厳しい現実には直面しながらも、困難を乗り越えようと模索し続けています。市の情勢を見極め、今、何をすべきかを考え、全力で取り組みます。

今年には市制施行80周年。次なる100周年に向けて、シビックプライド（都市に対する市民の愛着や誇り）を醸成する新たな出発点にしたいと考えています。

「塩竈が持つ魅力とは何か」「塩竈が抱える課題とその解決策は」など、情報を提供、共有、議論、そして、ともに考える場を積極的に創り上げていく。その積み重ねが、地域を育み、そのために行動する、行動できる人づくりにつながっていくのではないのでしょうか。

— 誇れる塩竈を次世代へ —



塩竈市長  
岩野 隆樹